

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	りんくききょう		
○保護者評価実施期間	R8年 2月 12日		R8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数) 12名
○従業者評価実施期間	R8年 2月 12日		R8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもの主体的な興味を起点に活動が広がり、楽器活動などを通して一人ひとりの挑戦が仲間への刺激となって新たな目標や意欲を生み出すなど、子ども同士の良い影響が自然に生まれる環境がある。	・子どもの気持ちを尊重し継続を支え、発表の場を設けることで成功体験につなげています。	・地域との交流の機会における演奏活動の充実や、子ども同士によるバンド活動の展開などを図り、主体的な表現の場をさらに広げていく。
2	・多様な体験活動や社会見学の機会を積極的に設けるとともに、活動プログラムの企画にあたっては子どもの意見を取り入れながら内容を構成している。	・一人ひとりの状況に応じて意見を表出しやすい環境づくりに配慮しながら、集団、小集団、個別など形態を工夫して意見を把握するとともに、チームマネジメント活動にも取り組んでいる。	・活動終了後には子どもと職員間で感想を振り返り、その意見を次の活動内容に反映させるとともに、将来的な自立や社会参加を見据えて、公共施設や公共交通機関の利用練習やピアリーダー活動の充実を図り、ライフステージの進展に応じた日常生活動作や社会生活の力を高める機会を提供していく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・子どもの主体性を重視するあまり、活動内容の事前計画や見通しの設定が十分でない場合がある。	・児童の意見やその日の意欲を尊重することを優先する中で、当日の話し合いによる決定が多くなり、計画的なプログラム構成が不十分になっていることが要因と考えられる。	・児童の意見を反映させる仕組みを事前に設けた上で、年間、月間の計画を明確に立て、見通しを持った活動運営を行うとともに、柔軟性とのバランスを図っていく。
2	・保護者との定期的な面談の機会が十分に確保できていない。	・これまで職員の人員体制が十分でなく、日々の支援業務を優先する中で、保護者との面談時間を計画的に設定することが難しかったことが要因と考えられる。	・人員体制が整いつつあるため、保護者との面談時期をあらかじめ設定し、日程調整を行いながら定期的な面談を実施するとともに、継続的な情報共有の充実を図っていく。
3			